

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工((電A)1年))

范莉馨・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 後期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一步進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関係するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】コミュニケーション、中国語、発音、基礎文法

【先行科目】[先行科目]

【関連科目】[関連科目]

【到達目標】中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第11課
3. 第12課
4. 第13課
5. 第14課
6. 第15課
7. 第16課
8. 第17課
9. 中間テスト
10. 第18課
11. 第19課
12. 第20課
13. 第21課
14. 期末復習
15. 期末テスト
16. 総括授業

【教科書】董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版②』(朝日出版社)1000円。

CDがあるので必ず購入すること。

【参考書等】[参考資料]

【成績評価の方法】小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。具体的な点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が10%、中間考査が40%、期末試験が50%ということになっています。

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221265>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 范。

Chinese

Introductory Chinese

(工((電A)1年))

名 姓・PART-TIME LECTURER / CENTER FOR GENERAL EDUCATION

1 unit 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

Target) 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一歩進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

Outline) テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

Keyword) コミュニケーション, 中国語, 発音, 基礎文法

Fundamental Lecture) [先行科目]

Relational Lecture) [関連科目]

Goal) 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

Schedule)

1. ガイダンス
2. 第 11 課
3. 第 12 課
4. 第 13 課
5. 第 14 課
6. 第 15 課
7. 第 16 課
8. 第 17 課
9. 中間テスト
10. 第 18 課
11. 第 19 課
12. 第 20 課
13. 第 21 課
14. 期末復習
15. 期末テスト
16. 総括授業

Textbook) 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版②』(朝日出版社)1000 円。

CD があるので必ず購入すること。

Reference) [参考資料]

Evaluation Criteria) 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。具体的な点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%, 中間考査が 40%, 期末試験が 50%ということになっています。

Re-evaluation) 有

Message) 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221265>

Contact (Office-Hour, Room, E-mail)

⇒ 范 .